

償金が1990年から被強制収容者に渡された。これにより、日系人のアメリカに対する信頼は回復することができた。

日系人は多くの犠牲を伴った努力により、社会的・経済的地位を向上させ、医師・弁護士などの専門職に就くことが多く「成功したマイノリティ」と称されるようになった。しかし、現在多くの日系人が理論上で手に入る管理職に就く機会を制限する、いわゆる「ガラスの天井」が自分たちの頭上に存在することに気が付いている。1980年代、日米間の貿易摩擦問題がアメリカ社会に大きな影響を及ぼし、「日本たたき」が顕著になった。このできごとは日系人に対する人種的偏見による嫌がらせ、恐喝、暴力を増加させた。常に日系人が日米関係悪化のスケープゴートにされてきたことは、このような歴史が証明するところである。

1980年の統計では、日系人の72%がアメリカ生まれで、日系3世の60%は日系人以外と結婚している。このように、日系人は他集団との様々な関係を持ちながら、「日系アメリカ人」としての意識を持つ一方で、「アジア系アメリカ人」であるという意識も徐々に育ってきた。

「日系アメリカ人の歴史」の学習展開

「日系アメリカ人の歴史」を教材化するにあたり、中学2年生の歴史的分野の特設単元として、次のような学習展開を構想した。

第1時 日系アメリカ人の強制収容について知ろう。 同時多発テロの映像と関連資料から、事件後アメリカ国内でイスラム系アメリカ人に対する排斥の動きがあることに気付く。同様な出来事として、「日系アメリカ人の強制収容」に着目して、資料をもとにして強制収容についての学習を行う。
第2時 なぜ日系アメリカ人が強制収容されたのか考えよう。 日系移民の歴史を学習することにより、日系人が人種的偏見から強制収容されたという事実に関心、人種偏見と闘いながら現在の地位を築きあげた日系人の歩みと現状を学習する。
第3時 日系アメリカ人の歴史から学ぶことは何か話し合おう。 多文化多民族が共存・共生するアメリカ社会にあって、日系人が全米日系博物館を設立した願いについて話し合う。その後、日系人団体がイスラム系アメリカ人排斥の動きに抗議した事実から、日系アメリカ人の歴史から何を学ぶことができたか話し合い、自分の考えをまとめる。

おわりに

今回、第3年次「米国理解教育プロジェクト」に参加することができ、アメリカ社会がいかに多文化多民族共生の上に成り立っているかを実感することができた。今回取り上げた「日系アメリカ人の強制収容」については、悲しい歴史ではあるが、アメリカがこの出来事を歴史的教訓として、きちんと謝罪し個人補償も行っていることにこの国の良さを感じる。それだけに、現在のアメリカ国内の一連の動きには当惑を感じるが、日本国内を振り返っても、北朝鮮拉致問題から在日朝鮮人の人々に対する嫌がらせが相次いでいることは周知のことである。このことから、この「日系アメリカ人の歴史」の学習を行うことは意義があると思う。

最後に、研修会における杉浦直先生の講演、全米日系博物館の方々のお話を参考にさせていただいたことにこの場をかりてお礼を申し上げます。

<参考文献>

- ・森茂岳雄、中川京子、川崎誠司「日系アメリカ人の歴史 - アメリカに渡った日系移民の歩み - 」(全米日系人博物館、2001年)
- ・飯野正子「もう一つの日米関係史」(有斐閣、2000年)